

櫻田 寛子

法経学部 経済学科 1998 年卒

① 自身の仕事

公認会計士

② 自身の仕事の紹介

私は 1999 年に朝日監査法人（現 有限責任あずさ監査法人）に入所し、現在はパートナーとして主に上場企業などの監査に従事しています。公認会計士は監査・会計のスペシャリストとして独占業務である監査だけではなく、アドバイザリーや税務業務、組織内会計士など幅広い業務を実施することができます。ここでは、主たる業務である監査業務について学生の皆さんに紹介をしたいと思います。

監査業務は、企業が株主等の利害関係者への情報開示のために作成した財務諸表等について、独立の第三者である公認会計士が内容を検証し保証するものです。企業が作成した財務諸表に不正や誤謬があった場合、投資家、株主、債権者等が不適切な情報に基づき意思決定をすることで、多大な損害を受けるリスクが生じます。不正や誤謬により多くの人が損害を受けるような状況を排除するため、日本経済を支える重要な職業です。一般的な監査のイメージは、机で会計データと証憑等のチェックをしていると思われがちですが、それは間違いです。企業の全ての事業活動は最終的に財務諸表等に集約されるため、企業のビジネスの理解、取り巻く経済環境の理解をすることにより、財務諸表等の内容を検証し保証することができます。そのためには、本社だけではなく工場、支店、子会社など、実際に事業活動が行われている現場を見て、担当者から話を聞き、理解した内容が会計データと整合性が取れていることを確認することが必要です。監査を実施するためには、それ以外にも企業の所属する業界の知識、会計基準・監査基準の改訂も含めたキャッチアップ、最近ではサステナビリティやデジタルといった領域への理解も必要なため、専門性が高い業務としてとてもやりがいがあります。専門性の高い業務をしてみたいと考えている人、いろいろな業種の会社をしてみたい人はぜひチャレンジしてみませんか。

③ 自身の業界へ興味がある在学生の皆さんへのアドバイス

公認会計士の試験科目は、短答式が財務会計論、管理会計論、監査論、企業法となっており、論文試験は、会計学、監査論、企業法、租税法、選択科目（経営学、経済学、民法、統計学）から 1 科目となっているため、試験科目と重複しているカリキュラムが多いのは「経営・会計系コース」です。ただ、公認会計士は、短答式と論文式の試験に合格すれば誰でもなることが可能であるため、実はどこのコースを選択しても目指すことができます。実際に公認会計士の試験合格者には、文学部、法学部、理系学部など会計系以外の学部出身者もたくさんいます。多くの人は専門学校にも通って試験科目の勉強をするため、「経営・会計系コース」を選択した場合には大学で学んでいるカリキュラムも含まれていることから受験勉強をスタートしやすいということはあると思いますが、勉強が進んでいくに

つれてあまり関係がなくなっていくと思います。また、前述した通り公認会計士は試験に合格すれば誰でもなることが可能であるため、一度就職をしてから目指す人もいますし、社会人としての経験が公認会計士の業務にも生かすことができると思います。どんなキャリアパスであっても、いつの時点からでも公認会計士を目指すことはできますので、今後のコース選択や就職活動をしていくうえで、ご参考してもらえると嬉しいです。

(2022年10月)